

第 107 回監視・評価検討会 本日の確認事項

原子力規制庁

議題1. 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉中長期実行プラン2023

- ・ 高線量瓦礫等の減容についても検討すべき、また、瓦礫等の仕分けは今後放射能濃度によるものに見直した方がよい(井口委員)
- ・ 汚染水対策の中で、陸側遮水壁(凍土壁)について費用対効果も考慮してよりよい対策を検討すべきであり、監視・評価検討会において現時点の検討状況の説明を求める(橘高委員、高坂オブザーバー)
- ・ 廃棄物対策の中で、新たにリスクマップで設定した目標(水処理廃棄物の固化処理や放射能濃度・性状による保管・管理に係る目標)を、今後具体的に実行プランに反映すること(原子力規制庁、高坂オブザーバー)

議題2. 東京電力福島第一原子力発電所の分析体制の強化に係る取組等

- ・ 福島国際研究教育機構(F-REI)におけるプログラムに、技能の向上に向けたインセンティブを与える仕組みがあることが望ましい【対資源エネルギー庁】(井口委員)
- ・ 分析計画の中で、濃度管理に移行するための分析が優先されるべき(井口委員)
- ・ インベントリの評価方法としてあげられている統計学的手法について、規制側とその適用可否について早い段階で議論し、必要であれば分析計画に反映すべき(山本委員)

議題3. 中期的リスクの低減目標マップにおける固形状の放射性物質の目標に対する進め方

- ・ コンクリートの汚染については、表面汚染と浸透深さを考慮した濃度を検討すること(橘高委員)

議題4. ALPS処理水の海洋放出に関連する審査・検査等の状況

- ・ 施行管理上、品質保証活動として東京電力自らによる検証が必要であり、今後の活動に反映されるべき(蜂須賀委員、原子力規制庁)
- ・ 東京電力は、ヒューマンエラーを防ぐことも含め、社を上げて真剣に取り組んでほしい(蜂須賀委員、田中委員)
- ・ ALPS処理水の分析結果の比較については、分析手法や判断の考え方を分かりやすく記載してほしい【対原子力規制庁】(高坂オブザーバー)

議題5. 1号機PCV 内部調査について

- ・ ペDESTALの耐震評価はその前提条件の妥当性の判断が困難であり、原子力規制庁としてはペDESTALの支持機能喪失に関する影響の考察と格納容器内部の閉じ込め機能維持方針を確認していく(原子力規制庁)
- ・ 耐震評価に当たっては、1号機の実際の条件を適用して行ってほしい(高坂オブザーバー)

議題6. 東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・分析に係る中間取りまとめ(2023年版)

なし

議題7. その他

- ・ スラリー抜き出し装置については、HIC構造体への線量影響もあり、早めに検討・実現してほしい(高坂オブザーバー)

・ 本資料は、検討会において認識共有した内容をもとに作成し、ホームページに掲載しています。
なお、会議の進行と同時並行で作成しているため、正確な表現ではない部分があります。